SEINAN

Spirit

No. 238

西南学院大学
2026 Autumn

特集

七三活



アイデアで課題を乗り越える!

最前線

【決断ターニングポイント!】
ビジネスプロデューサー

【今、私は、】
福岡県少年警察ボランティア

【世界がキャンパス】
ケルン大学［ドイツ］

【MY ANSWER】
自分らしさ×□?□

【こんにちは先輩】
有限会社ウィロー
商品プランナー

「SEINAN Spirit」はスマホでも読めます!

SEINAN Spirit No.238 2026 Autumn

2026年9月11日発行（季刊誌）
編集／西南学院 総合企画部 広報課 〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
☎092-823-3248
発行／西南学院大学









#6月のキャンパス

雨続きの日々を越えて
光あふれる夏へ!
ワールドカップ観戦で
眠たい顔もちらほら!?

#オープンキャンパス

キャンパスライフを
高校生が1日体験。
学生たちは
西南の魅力をアピール!

あの日、あの時がよみがえる。

Memories of Seinan Campus in summer



#就活イベント

未来への一歩を、ここから。
会場は真剣に聞き入る
学生の熱気に
あふれていました。



#音系サークル

クラシック、ジャズ、ロック…
さまざまな音色が響き合い、
放課後のキャンパスを
彩ります。





公式SNSをフォローして、西南学院大学の「今」を知ろう!

西南学院大学公式SNS　皆さまからの「いいね!」をお待ちしております!

Facebook　X　YouTube　Instagram

西南学院Letterにご登録ください!

メルマガ「西南学院Letter」は、西南学院のNEWSやイベント情報などをおよそ月2回の頻度でお届けいたします。

ぜひご登録ください!

Spiritを読んでのご意見・ご感想をお寄せください!

皆さんの声を生かした誌面作りを目指していきたく、QRコードよりご意見やご感想をお寄せください。あなたの声が広報誌に反映されるかも?!

西南学院大学



アイデアで
課題を乗り越える！

特集

ゼミ活最前線

知的好奇心を専門的な学びへと広げるゼミ活動。
座学で培った知識を
地域や企業の課題解決に活用したり、
その成果をプレゼンテーションで発信したり。
また、研究を通じた新たな知との出合いも
ゼミ活動の醍醐味です。
そこで、今回はさまざまな分野でチャレンジする
ゼミ活動を紹介します。





CONTENTS

【特集】 p02
アイデアで課題を乗り越える！
ゼミ活最前線

【就活サプリ】 p13
就活が動き出す秋、注目のキーワードは「就活EXPO」&「AI」。

【決断ターニングポイント！】 p11
ビジネスプロデューサー
〈卒業生！〉
株式会社九州博報堂
落合 沙優さん

p17
SEINAN NEWS

【今、私は、】 p15
キーワード
福岡県少年警察ボランティア
法学部法律学科 4年 林 美羽さん 〈在学生！〉

【MY ANSWER】 p21
自分らしさ×□？
国際文化学部国際文化学科 伊東 未来 准教授
人間科学部児童教育学科 村上 大記 准教授

【世界がキャンパス】 p19
ケルン大学
［ドイツ］
〈海外派遣留学生！〉
経済学部国際経済学科 4年 岩山 開智さん

p25
INFORMATION

【こんにちは先輩】 p23
有限会社ウィロー
商品プランナー
浅羽 雄一さん 〈卒業生！〉

#133

雲の柱 火の柱

『体験の重み』

月旅行をしてきた。宇宙服を着て宇宙船に乗りこみ、気付けば月面に降り立っていた。探査車で移動し、記念撮影もした。実はこれ、東京ドームシティのVRアトラクションでのこと。ワクワクしたしハラハラもした。けれども、不思議なほど手ごたえは残らなかった。そもそもVR体験にそんなものを求めること自体が見当違いなのだろう。だが、ちょっと気になった。なぜ手ごたえが残らなかったのか…。おそらくVRを体験と呼ぶには、決定的に欠けているものがあるのだと思う。それは〝取り返しがつかない〟という感覚。人は危険を避けようとするから集中し、失敗が許されないから感覚を研ぎ澄ます。転べば痛いし、失言すれば空気が変わる。こうした不可逆な現実の中だからこそ、人は深く考え、自分の感覚を総動員して事に向かおうとする。そう、これを抜きには手ごたえのある体験とはなり得ないのではなかろうか。

この先、技術がさらに進歩し、合格通知と一緒にVRゴーグルが送られてくる時代が来るかもしれない。そうだとしても、人を本当に成長させるものは、このアナログ世界に在り続けるに違いない。失敗も成功も。取り返しがつかない〝世界だからこそ、ひとつひとつの生身の体験には重みがある。

広報委員長 **黒木 重雄**

好きなフレーバーを振って仕上げる!

「しゃかしゃかラスク」

いちご・ほうじ茶・黒糖・メープル　500円(税込)/50g

idea 1

既存パッケージの特長を生かし、「振って楽しむ」という食べ方を提案。

「ジップ付き」という形状を生かして、開封後にパウダーを加えて振り、自分で味を完成させるという新たな体験価値をプラスしました。

フレーバーパウダーをプラス



idea 2

コストを考え、4つのフレーバーを厳選。

試作段階ではラズベリー味も候補に挙がりましたが、手に取りやすい価格と原価を考慮し、税込500円以内で販売できるフレーバーを採用しました。

idea 3

分かりやすい商品名に変更!

アンケート調査で「どんな商品か分からない」という声を踏まえ、「どんなお菓子なのか」が伝わる商品名を考えました。

Keyword

経験消費

商品そのものではなく、「体験すること」に価値を感じて消費する考え方。特に若者世代は、体験を重視する傾向にあることが、企画採用を後押ししました。

Before



「ころころっと」
540円(税込)
/60g

しゃかしゃかすれば、
2度おいしい!



振って楽しい!
食べておいしい!

5日間で48個を販売し、売上げにも貢献!

「しゃかしゃかラスク」をDOCOREの催事で販売。私たちも店頭に立って試食販売などの販促活動を行いました。その結果、5日間で48個を販売し、これまで売上げが伸び悩んでいたDOCOREで過去最高の販売数を記録しました。



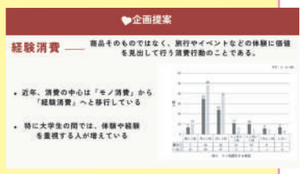
店頭POPも制作しました



開発秘話

「伝え方」を工夫し、商品化を勝ち取る!

当初、瀬川菓子舗の担当者は「しゃかしゃかラスク」の商品化に慎重でした。そこで、「経験消費」の視点を企画書に盛り込み、試食も準備して商品の魅力をアピール。さらに、生産工程やパウダーの分量を提案したことも評価され、企画採用につながりました。





担当教員からの総評

明確な正解がない課題への挑戦が大きな成長に。

みついゆういち
三井雄一教授
(商学部経営学科)

今回のプロジェクトでは、データに基づいた企画提案を重視し、実務でも活用される分析手法を用いて多角的に課題を検討しました。明確な正解がない中、既存パッケージを活用するという制約を逆手に取った発想は非常に印象的でした。試作品の制作や提案内容のブラッシュアップを重ねながら、主体性や粘り強さ、チームワーク、論理的思考力を大きく伸ばしてくれたと感じています。



私の成長POINT

制約がある中で養われた、優先順位を見極め、企画を実現する力。

状況に応じて柔軟に対応する力が身に付きました。企画変更を余儀なくされた際には、限られた期間の中で優先順位を整理し、制約の中で最善策を導き出す力を養うことができました。また、商品企画はアイデアを生み出すだけでなく、その実現可能性を見極める力が求められる仕事だと学び、商品企画職への理解が深まったことで、就職活動にも大いに役立ちました。

［ 課題 ］

宮若市で人気の洋菓子を知らない人にも手に取ってほしい!



売上げに苦戦する洋菓子の販売企画に挑戦。制約を強みに変え、新たな魅力をプラスした商品に改良!

今回、私たちは宮若市の瀬川菓子舗が抱える、洋菓子「ころころっと」の売上向上に取り組みました。「ころころっと」は、人気の焼き菓子である「キャロット」の成形時に生じる切れ端を活用したサイコロ型ラスクです。地元・宮若市では人気ですが、博多マルイの福岡アンテナショップ「DOCORE」では売れ行きが伸び悩んでいました。

そこで、約70人のアンケート調査やクチコミ分析、トレンド分析、売り場観察を実施。これをもとに、20代前半をターゲットとした500円のカジュアルギフトとして販売する企画を立案。また、アンケートで「中が見えず、どんなお菓子か分からない」という声が多く寄せられたことから、中身が見えてギフト感のある新パッケージも提案しました。しかし、既存パッケージの在庫を大量に抱えていることから、企画は見送られ、最終提案に向けて「から企画を練り直すことになりました。

そこで着目したのが、既存パッケージのジッパー機能です。何度も開封できる特長を生かし、「パウダーを入れて振る」「自分で味を完成させる」という体験価値を加えた新商品「しゃかしゃかラスク」を考案。コストや作業工程を考慮し、より実現性の高い企画にブラッシュアップしました。さらに、先方との認識のずれを防ぐため、打ち合わせの方法を改め、議事録を共有するように徹底しました。その結果、「しゃかしゃかラスク」は採用され商品化へ。「DOCORE」の催事では5日間で48個を販売することができました。

私は、これまで挑戦したプレゼン大会では、「自分のやりたいこと」を中心に考えていました。しかし、今回のプロジェクトを通して、企業側の視点と消費者のニーズを踏まえて企画する重要性を学びました。この経験を、将来目指す化粧品の商品企画の仕事にも生かしていきたいです。

しおづき
塩月ひよりさん
商学部経営学科4年
(福岡大学付属若葉高等学校出身)



課題のPOINT

1. 宮若市では人気の『ころころっと』だが、博多では知名度がなく、売れ行きが今ひとつ…
2. アンケートから「商品名やパッケージからどのようなお菓子なのかが分からない」という声多数。
3. 既存パッケージの在庫が大量に残っているため、パッケージ変更は不可。

テーマは「マーケティング調査、消費者心理」。マーケティングの基礎知識を土台に市場調査を行い、企業や行政が抱える課題を解決する提案・施策に取り組みます。提案だけで終わらず、企業との交渉や商品開発、販促活動まで担い、実践的なスキルを養います。

Collaboration

瀬川菓子舗(宮若市)

大正12年に宮若市で創業した老舗の和洋菓子店。看板商品の棒状クッキー「キャロット」をはじめ、和菓子・洋菓子を幅広く展開。今回、販売促進プロジェクトに同社の洋菓子「ころころっと」を対象商品として取り上げました。

PRESENTATION

子どもと一緒につくって、食べて、遊んで、

「レクレープ☆フェスティバル!」

開催日時：2025年8月9日(土)
会場：西新公民館　参加人数：小学1年生~6年生 19名　参加費：100円(材料費一部負担)



実は、アイデアいっぱい!



企画内容

前半	クレープづくり(2時間)
	フルーツやホイップクリームなどを自由にトッピングし、クレープづくりに挑戦。学生は小学生をサポートしながら、一緒にクレープづくりを楽しみました。

×

後半	レクリエーション(1時間)
	チーム対抗で「ジェスチャーゲーム」「風船バレー」「じゃんけん列車」を実施。年齢や体力に関係なく参加できるレクリエーションを取り入れ、子どもたち一体となって盛り上がりました。

idea 1
手軽さ、安全性から クレープを選択

当初は、カレーづくりを予定していましたが、8月の開催であること、包丁や火を使用する際の安全性などを総合的に判断。低学年でも安全に簡単に調理できるクレープを選択しました。

idea 2
遊びを通して、 世代を超えた交流を育む

おいしいクレープで幸せな気分になった後は、レクリエーションを実施。小学生同士、そして大学生との交流を通して、年齢を超えた交流の楽しさや地域とのつながりを体感できる企画を目指しました。

idea 3
子どもたちが飽きずに 楽しめる構成に

クレープづくりの後にレクリエーションを実施。「後でいっぱい遊べるから、まずはクレープを完成させようね」と声をかけることで子どもたちを調理に集中させ、最後まで飽きずに楽しめるプログラムにしました。

新たな気付きと課題

少子高齢化が進む過疎地域で、どのように「若い力」を取り込むか。

日本全国には、大学生のような若い担い手を確保することが難しい地域が少なくありません。そうした地域では、地元の中学生や高校生を地域活動に巻き込み、次世代の担い手を育てていくことが持続可能な地域づくりの鍵になるはずです。そして、地域の担い手不足は社会全体で考える課題だと改めて実感しました。



Keyword

身近でできるSDGs

SDGsは「壮大な世界課題」と思われがちですが、実は日々の暮らしの中で始められることを体感し、持続可能な社会づくりにつなげていきます。

SDGsへのアクション

クレープづくりは学生も初体験!



❶ 食べられる量だけ取る

「食べられる量だけトッピングしよう」「独り占めせず、みんなで分け合おう」と子どもたちに自然な会話で促すことで、食品ロスを防ぐことを実践しました。

目標 12:つくる責任つかう責任

❷ 大学生の力を地域に生かす

大学生の「若い力」をまちづくりに取り入れることで、地域行事に活気が生まれ、多世代交流がつながる地域コミュニティづくりにつながりました。

目標 11:住み続けられるまちづくりを



こいで ひでお
小出 秀雄教授
(経済学部経済学科)

担当教員からの総評

社会で揉まれる経験が へこたれない気持ちと 責任感を育てています。

「現場では口を出さず、学生に任せる」ことを大切にしています。成功体験だけでなく、失敗したり、試行錯誤したりした経験が大きな成長につながります。今回のプロジェクトでも、地域の方々と関わる中で感じた緊張感は教室では得られない経験であり、社会で必要なストレス耐性や責任感を身に付けられたと思います。



私の成長POINT

客観的な判断で チームをまとめる力は、 大きな自信に。

チームの意見をまとめるリーダーシップが身に付いたと実感しています。意見が分かれた際には、それぞれのメリット・デメリットを客観的に整理し、チーム全員が納得できる方向に導くことができました。この経験はリーダーとしての自信につながっています。一方で、スケジュール管理や不測の事態への対応力は今後磨くべき力だと考えています。

[課題]

高齢化で地域の担い手が不足…。行事で子どもと地域をつなぎたい!



課題のPOINT

❶高齢化にともない地域行事の担い手や参加者が減少。

❷高齢者だけでは行事の実施が体力的に難しい。

❸地域行事が減り、地域のつながりが希薄に。

❹地域行事に参加する子どもも減少傾向に。

大学生のアイデアとパワーで、子どもと地域がつながるイベントを企画。〝身近でできるまちづくり〟を実践!

私たちN.M.Connectチームは、西新から百道浜までのエリアの地域のつながりを深めることを目的に、SDGsに基づくまちづくりに取り組んでいます。主な活動は地域イベントに参加することですが、先輩たちから受け継いだ企画を踏襲するだけでなく、自分たちで地域イベントを企画したいと考え、プロジェクトを始動しました。

まず、取り組んだのが西新公民館へのヒアリングです。高齢化に伴う担い手不足により、地域行事の継続が難しい状況にあることが分かりました。特に、子ども向け行事では子どもたちのパワーに対応できる若い世代の人手が不足し、参加する子どもの数も減少傾向に。そこで、大学生の力を生かし、子どもたちと一緒に楽しめる企画として料理教室とレクリエーションを組み合わせたイベントを企画。公民館だよりで参加者を募集したところ、すぐに定員の20名に達し、子どもと地域をつなげるきっかけづくりの重要性を実感しました。

当日は、子どもが最後まで楽しめる進行を工夫するとともに、食品ロスなどSDGsを身近に考える機会も提供しました。参加した子どもたちからは「最高に楽しかった」という声をもらい、西新公民館の方からも「新しい切り口のイベントになった」と感謝の言葉をいただきました。この経験が、子どもたちにとって地域に愛着を持ち、将来の地域の担い手になるきっかけになることを願っています。

私自身も地域貢献は特別なことではなく、身近な活動の積み重ねから始まることを実感しました。今後は清掃活動や祭りなど、地元の地域活動に積極的に参加したいと考えています。また、卒業後は「地域貢献」を理念に掲げる企業へ就職予定です。仕事でも地域のつながりを大切にしながら、「持続可能なまちづくり」の実現に貢献することを目指します。



ひらた ゆうや
平田 裕也さん
経済学部経済学科4年
(明善高等学校出身)

経済学部経済学科 小出秀雄ゼミ

ゼミのテーマは「SDGs(持続可能な開発目標)に基づく地域づくり」。西新や百道浜、姪浜など大学周辺の地域をフィールドに、地域課題の解決に取り組み、持続可能なまちづくりを担う主体的な人を育成します。2025年度は3チームに分かれて活動。

〈チーム1〉
N.M.Connect
西新から百道浜までのエリアを中心に活動。学生主体でイベントを企画・運営し、地域行事への参加を通して地域に根ざしたまちづくりに取り組んでいます。

〈チーム2〉
姪浜city
姪浜エリアを中心に活動。2025年度は、小学生の夏休みの宿題をサポートする「夏休みお勉強会」、おもちゃを作って遊ぶ「ハロウィンイベント」などを企画・運営し、地域の子どもたちや住民との交流を深めました。

〈チーム3〉
Re・エコロ
「身近でできる環境活動」をテーマに活動。百道浜の清掃イベントへの参加の他、「環境フェスティバルふくおか2025」では、せっけんづくり体験教室を開催。楽しみながら環境問題を学ぶ機会を提供しました。

ゼミでは、社会から排除されがちな人々の生活課題を、本人・家族・地域・制度の相互関係から捉え、「どのような支援や社会資源が必要か」「地域の中でどのように支え合えるか」について考えます。施設見学や裁判傍聴、地域イベントへの参加など実践的な学びを重ね、2025年度は、学内プレゼンコンテスト「SYNAPSE」にも挑戦しました。

SYNAPSE とは?

株式会社シティアスコムと西南学院大学が共催する学内プレゼンコンテスト。地域社会や企業が抱える課題をテーマに、学生が解決策を提案し、そのアイデアを競い合います。第1回となる2025年度は24チームが参加しました。



平山 遙菜(ひらやま はるな)さん
人間科学部社会福祉学科4年
(龍谷高等学校出身)

［ 課題 ］

知的障がい児を育てる悩みを共有でき、気軽に相談できる居場所がほしい。



**理想を語るだけで終わらせない！
知的障がいのある子と家族のために
実現性を見据えた支援を提案。**

昨年、私たちはゼミ活動の一環として、学内プレゼンコンテスト「SYNAPSE」に挑戦しました。「SYNAPSE」では、社会課題を自ら見つけるところから始まります。そこで、社会福祉施設や高齢者施設、障害者施設などでの実習を通して感じた課題を持ち寄り、テーマを検討しました。引きこもり問題や高齢者の孤立などさまざまな課題が挙がる中、私たちが選んだのは、「知的障がい児とその家族の居場所づくり」です。決め手となったのは、「親の会」に参加したゼミ生から聞いた家族の声でした。同じ悩みを持つ親たちがつながれる場や、福祉サービスだけでは補えない支援を求めている現状を知りました。そして、大学生だからこそ、子どもたちと近い目線で寄り添えると考え、このテーマに取り組むことを決めました。

解決策を考える中で議論したのは、「どこに居場所をつくり、どのような支援を提供し、運営するか」という点です。プレゼン大会であっても、社会課題の解決には実現可能性や継続可能性まで考えることが大切です。そこで私たちが出した答えが、西新商店街に「第二のおうち」のような居場所をつくるという提案です。商店街であれば、日常生活の延長で保護者も気軽に立ち寄ることができ、地域の社会貢献にもつながると考えました。一方で、大きな課題となったのが会場費用と固定費でした。そこで昼間は空き時間の多い商店街の飲食店に着目。店舗の空き時間を活用することでコストを抑え、持続可能な運営方法を提案することができました。

今回の挑戦を通して、制度だけでは支えきれない課題が数多く存在することを実感しました。私たちの提案が、知的障がい児とその家族を支える居場所づくりの一歩となり、地域に根ざした支援の輪が広がることを願っています。

布川 真莉菜(ぬのかわ まりな)さん
人間科学部社会福祉学科4年
(長崎北高等学校出身)

課題のPOINT

1. 知的障がいに関する情報が少ない。
2. 育児や発達の悩みを相談できる人がいない。
3. 知的障がいのある子どもが安心して遊べる場所が少ない。

PRESENTATION

知的障がい児と家族のための新しい支援のかたち

「街の真ん中に、親子の第2のおうちin西新」



① 設定した社会課題

知的障がいのある子どもと親が安心して過ごせる居場所がない

専門施設や行政の相談窓口はありますが、障がい児の育児や発達の悩みを気軽に相談できる場は十分にありません。居場所づくりへのニーズはあるものの、自宅以外で"安心して集える場所"の確保が課題となっています。

親が子どもの障がいを受け入れるまでには、「ショック⇒否認⇒悲しみ・怒り」という波を乗り越え、「適応・再起」というプロセスがあります。この**プロセスをサポートするためにも、「居場所」が不可欠なのです。**



社会や同じ悩みを抱える仲間とのつながりが持てず、孤立感を深めている。

Keyword

ピア・サポート

同じような経験や悩みを持つ者同士が支え合う仕組みをいいます。「居場所」を通して仲間とつながり、自身の経験を誰かを支える力として生かしていくことも、提案のもう1つの目的としています。

② 私たちの課題解決案

仲間とつながる"居場所"を、商店街に



"居場所"を通して、地域とのつながりも生まれます。

支援1 子どもの居場所を提供

- 子どもたちが「楽しい」と思える活動を企画。
- 学生スタッフが学習を支援。
- 家族がリラックスできる空間を提供。

支援2 保護者への支援

- 保護者同士が悩みや情報を無理なく共有できるピア・サポートの場を提供。
- 専門職とつながる機会を提供。支援機関への橋渡しもサポート。
- 発達や子育てに関する講座を開催。

支援3 親子への関係性づくり

- 親子で参加できる体験活動を企画。
- 子どもの特性を理解しながら、親子で楽しめる関わり方を提案。
- 地域ボランティアや学生スタッフも参加。

＜活動場所/協力店舗＞

立ち呑み たってん
西新4-7-21
マックスバリュ西新店の隣

店舗の空き時間を活用。無償で活動場所を提供。活動応援メニューを通じて、地域の皆さんも社会貢献に参加できます。

＜運営方法＞

- 参加費の設定(親子200円/子どもだけの参加は無料)
- クラウドファンディング&店舗内の募金箱
- 協賛企業・店舗の募集(特典としてチラシ・広告付きTシャツ作成)
- 活動応援メニュー(売上の一部を寄付)
  →店舗と地域の協力により、継続的な活動を支えます。

自立した運転資金を確保。有償ボランティア化にすることで継続的な活動を実現

③ 大会の結果

「最優秀賞」と「協賛企業賞」をダブル受賞!

「新規性」「地域性」「実現可能性」が高く評価され、最も優れたプロジェクトとして最優秀賞を獲得。さらに、ビジネスの視点からも評価され、企業賞も合わせて受賞することができました。



大逆転秘話

**なぜ、審査員に刺さらない?
中間発表の反省を生かし、企画書を改善!**

中間発表では、知的障がい児と家族の居場所づくりの必要性が十分に伝わりませんでした。そこで、障がい児の推移や保護者の悩みを示すデータを企画書に追加。課題の重要性を数字で示したことで、企画の説得力を高めました。





なかむら ひでさと
中村 秀郷准教授
(人間科学部社会福祉学科)

担当教員からの総評

学生の柔軟な発想と福祉への深い理解が伝わる提案に成長を実感。

支援を「する側」と「受ける側」に固定せず、誰もが支える側になれるという考え方を形にした点は、学生ならではの柔軟な発想で福祉を深く理解した提案でした。また、発表担当者の急な体調不良にも、他のゼミ生が対応し、プレゼンを成功させました。全員が企画を自分ごととして捉えたチーム力も最優秀賞の受賞につながったと思います。

私の成長POINT



メンバーで議論を重ねる中で、異なる意見を頭から否定せず、お互いの考えを受け止めて話し合う「受容する姿勢」とチームで協力する力を身に付けることができました。



頭の中で問題意識を持つだけでなく、実際に調べて提案し、社会に対して動く・成し遂げるという実行力が身に付いたと実感しています。

ゼミ活 Report 4 Seminar

神学部神学科
藤方 玲衣（ふじかた れい）ゼミ

ゼミでは、「ヘブライ語聖書」や「旧約聖書」を読み、自分自身の立場や考えを言葉にしながら対話を重ね、「神学する」とはどういうことかを探求します。単に知識や情報を得るだけでなく、自分の思考を深めていくための土台を築くことを学びの目的としています。

［ 課題 ］

「聖書」を学ぶことは、多様な価値観に触れ、自己を理解すること。

私は「聖書は世界のベストセラー」という言葉に出合ったことをきっかけに、神学に興味を持ちました。

ゼミは、テキストを読むことから始まります。発表者は割り当てられた箇所を読解し、要点と自らの考察・感想をレジュメにまとめて発表します。その後、発表内容について発表者以外の学生と質問や感想を交わしながら、対話を重ねていきます。私は、この対話の時間をとても大切にしています。というのも、聖書という書物は多様な考えや矛盾を包含した文章群であり、一貫した思想や主張にまとめることは不可能といわれています。そのため、同じ箇所を読んだとしても、立場や価値観によって受け止め方や解釈は異なります。だからこそ、他のゼミ生との対話を通して、自分にはなかった視点や考え方に出合うことができるのです。また、自分自身の価値観や考えを問い直し、より深く思考するきっかけにもなります。このように他者と考えを共有し、対話することを通して、自らの思考を深めていく営みこそが「神学する」ということなのだと実感しています。



聖書は、長い年月をかけて、異なる時代・言語・文化・立場にあった数多くの人々によって書かれた文書の集まりだから、多様な視点や矛盾も含まれている

⇒「これが正解！」と、1つの教義にまとめることは不可能



ゼミでの学び

Q.「聖書」について「神学」するとはどういうことか？



他者と考えを共有し、認め合い、対話し、思考を深める

＝

この営みこそが「神学」すること

ゼミでは印象に残っているのは、解釈学について議論したことです。聖書は、昔の人が経験や思想・感情を文章として書き残したもので、後から修正したり、説明を加えたりすることはできません。そのため、解釈学では読み手がどのように理解するかというプロセスが重視されます。では、解釈において大切なのは、著者の意図なのか。それとも読み手の理解なのか。私は読み手の理解を重視し過ぎると、解釈が際限なく広がってしまうのではと考えました。この疑問に対し、先生から「作者の死」という考え方を教わりました。作品の意味は必ずしも作者の意図だけで決まるものではなく、読者が新たな意味を生み出すことにも価値があるという新しい視点を得ることができました。

私はゼミを通して、聖書をどのように理解するかに正解はなく、さまざまな考えを、聖書は受け入れてくれるということを学びました。そして、私にとって宗教を学ぶということは、世界の人々とつながり、多様な考えを理解できることにつながるのだと実感しています。

山本 珠生（やまもと たまみ）さん
神学部神学科4年
（龍谷高等学校出身）

ゼミ活 Report 5 Seminar

外国語学部外国語学科
一谷 智子（いちたに ともこ）ゼミ

ゼミのテーマである「エコクリティシズム」とは、文学や文化を通して、人間と自然・社会との関係性を問い直す、アメリカを中心とした英語圏発祥の世界的批評理論です。ゼミではこの視点から、人間と環境の関係性を軸に、ジェンダーや植民地問題など現代の多様な課題について考察します。

［ 課題 ］

炭鉱の町・大牟田に眠る「影の歴史」と語られなかった声に光を当てる。

私の故郷である大牟田市は炭鉱で発展した町で、小・中学校でも地元の歴史として学んできました。しかし、『見知らぬわが町』（中川雅子著）を基にフィールドワークと文献調査を行ったことで、これまでほとんど語られなかった大牟田の影の歴史を知ることになりました。

その1つが、多くの囚人と呼ばれた人（囚徒坑夫）が炭坑で過酷な労働を強いられていたこと。もう1つは、石炭運搬のために馬（坑内馬）が、人間の利益のために酷使されていたという事実です。しかし、幼い頃に遊んでいた公園は、囚徒坑夫にゆかりのある場所であったにもかかわらず、案内板や石碑も設置されていませんでした。また、坑内馬を弔う「馬塚」の場所も行政で把握されておらず、語り継がれなかった歴史の存在を痛感しました。

この残酷な歴史を調査結果に記すべきか、葛藤もありました。しかし、公の歴史の背後に「語られなかった、語らなかった声」があることを知ったからこそ、語り継がれなければ、その存在が失われてしまう。この気付きから、記録として残すことに決めました。そして、歴史を紡ぐのは歴史家だけの仕事ではなく、私たち一人ひとりがその担い手であることを実感できたことが、この課題で得た最も大きな学びです。

鶴田 望月（つるた みづき）さん
外国語学部外国語学科4年
（三池高等学校出身）

［ 課題 ］

沖縄負担軽減政策における環境負担の再配置

―グアム移転計画を事例として―

米軍基地の移転によって、地域が背負う環境問題を問う。

「沖縄」と「グアム」という一見関わりのない2つの観光地が、実は米軍基地問題に深く関わり合っている事実に着目し、ゼミのテーマである「エコクリティシズム」の視点から、軍事基地問題と環境破壊の関連性、そして「沖縄の負担軽減」を名目としたグアムへの基地移転の実態をテーマにした課題に取り組みました。

研究方法は、主に文献研究と報道の分析でしたが、現在進行中の問題であるため、情報収集は苦労しました。そうした中、「米軍基地の移転による自然環境や暮らしへの影響が不安」という、グアム訪問時に聞いた現地の方の声は研究を進める力になり、現地に足を運び、当事者の声を聞く重要性を再認識させてくれました。

また、「エコクリティシズム」の学びがあったからこそ、政治・軍事的な問題として捉えるのではなく、「そこに生きる人々の暮らしや自然が受ける傷み」に焦点を当てた多角的な考察ができたと実感しています。

この問題は、「国家の安全保障」と「地域の生存権」という簡単には折り合いのつかない問題であり、完璧な解決策を見出すことは容易ではありません。しかし、ゼミでのディスカッションを通じて、問い続けなければならないテーマだということを再認識し、現在、卒業研究として取り組んでいます。

鬼塚 衣里（おにづか えり）さん
外国語学部外国語学科4年
（九州産業大学付属九州高等学校出身）

ゼミ活 Report 6 Seminar

法学部法律学科
山田 恵子（やまだ けいこ）ゼミ

ゼミのテーマは「現場から考える法と社会」。「書かれた法」（Law on the Books）とは区別される「法の現実」（Law in Action）に着目し、インタビュー調査や観察などの定性的方法（質的調査）を用いて、司法制度の社会の中での実際の役割を探求します。

［ 課題 ］

裁判所は、社会の中で実際にどのような役割を果たしているのか

司法の「現場」を見たからこそ、導き出すことができた裁判所の役割。

私たちのグループでは、「司法制度は、社会の中で実際にどのような役割を果たしているのか」というゼミのテーマのもと、司法機関の1つである地方裁判所を調査しました。

この課題を取り組んだきっかけは、ゼミ活動での少年院見学です。そこでは法務教官が少年たちの非行事実（過去）だけではなく、その背景や将来にも目を向け、学習支援や職業訓練などを通じて社会復帰を支えている姿に触れ、司法に対する見方が大きく変わりました。そこで、法が適用される「現場」である地方裁判所を調査し、司法制度の実際の姿を探りたいと考えました。

実際の調査では、インタビューと裁判傍聴を実施。インタビューでは、組織運営や誰もが司法を利用しやすくするための取り組みについて、裁判所職員を取材。裁判傍聴では裁判官、原告・被告、代理人（弁護士）の発言を記録、分析しました。

これらの調査結果を基に、議論を重ねて見えてきたのは、裁判官の活動は、裁判所事務官や書記官、紛争当事者や代理人など、多くの人々に支えられて成り立っていることです。この気付きから、「法が社会を動かしている」のではなく、「社会が法を動かしている」という視点を得ることができました。また、待合いスペースの整備や法廷に「博多織」を採用していることなど、「空間」を通じて市民の緊張や不安を和らげようとする工夫も大きな発見でした。裁判所といえば、法的紛争を解決する場というイメージが一般的でしたが、市民に法を身近な存在として感じてもらう役割も担っていることを知り、大きな学びとなりました。

こうした気付きをもとに、裁判所の役割についてグループで議論を重ねました。ただ、現場で見て・聞いて・感じたことは、一人ひとりの立場や価値観によって異なるため、意見をまとめることは容易ではありませんでした。そこで、裁判傍聴の記録を基に「事実」と「評価」を区別しながら多角的に考察。最終的に、「裁判所は、法と社会（人々）をつなぐ役割を担っている」という、全ての意見を包含した結論を導き出すことができました。将来は、この学びを生かし、金融というフィールドで法と人をつなぐ仕事に貢献することが目標です。

地方裁判所の「現場」を調査

■調査の目的

裁判所の「法制度上（Law in Books）」の役割とは区別される、「現実的（Law in Action）」役割を解明する。

■実践した質的調査

① インタビュー調査

地方裁判所の職員への聞き取りを実施。西南学院大学の卒業生も!

② 裁判傍聴

「裁判官・原告・被告・代理人（弁護士）」の発言を筆記し、データ化して分析。

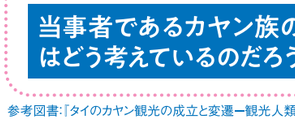
■現場を見て・聞いて・感じた気付き

裁判官の活動の背景には、裁判所事務官・書記官など多くの人が存在。こうした人たちの支えや関わり合いがあって初めて法が機能している。

⇒ **社会が法を動かしている**

待合スペースや、法廷の内装に「博多織」が採用されていることを発見。市民の緊張や不安を解消しようしている。

⇒ **空間（環境）を通したノンバーバルな配慮**



中村 真由香（なかむら まゆか）さん
法学部法律学科4年
（西南学院高等学校出身）

ゼミ活 Report 7 Seminar

国際文化学部国際文化学科
片山 隆裕（かたやま たかひろ）ゼミ

ゼミのテーマは「文化人類学の考え方の応用」と「近現代タイの社会文化的諸課題」。テキストの輪読・プレゼンテーションの他、タイでのフィールドワークも実施しています。

［ 課題 ］

タイ北部の少数民族「カヤン族」の観光に関して

伝統文化を「商品」にすることは、文化を守ることか、壊すことか。

ゼミでは、タイの少数民族・カヤン族をテーマに、観光と文化の関わりとその変遷について文献を読み、レジュメを作成して発表を行いました。

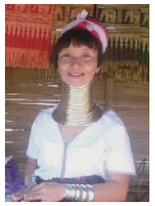
カヤン族は、ミャンマーでの内戦や迫害を逃れてタイへ移住した難民です。女性は首に真鍮のリングを着ける習慣があり、この伝統文化を観光業の売りとして生計を立てています。しかし、文化が「見せ物」として消費されているのではないかと、長年問題視されてきました。

一方で、こうした批判は研究者や観光客といった部外者によるものです。論文では、首にリングを着ける伝統文化が彼女たち自身にとってどのような意味を持つのかを、当事者の視点に立って考えることが文化と観光の在り方を考える上で重要だと指摘しています。実際、彼女たちは難民としての暮らしに向き合いながら、首のリングを着けるか外すかを「主体的に選択・判断」して生活していることが分かっています。

ゼミでは、この事例をもとに議論を重ねました。その中で、文化を見るときは、「観光」を切り離すのではなく、生活の一部として捉えること、観光産業をある一時点だけで判断せず、歴史の流れや変化を踏まえて理解することの重要性を学びました。また、文化人類学の視点から「あたりまえとは何か」を問い直し、多角的に物事を考える姿勢の大切さを実感しました。

私は以前からツーリズム産業に関心がありましたが、今回の学びを通して、観光の現場が抱える課題を知ることができました。将来は旅行業に携わり、実際に地域を訪れて文化や暮らしに触れながら、その土地ならではの魅力を守り、文化の継承と地域の活性化の両立に貢献したいと考えています。

タイの少数民族・カヤン族



ミャンマーからタイへ移住してきた難民であるカヤン族。女性が首に真鍮のリングをはめる伝統文化が観光の売りとなっている。

◎外部の声

伝統文化が観光の「商品」として見せ物にされているのはかわいそうだ!

本物の文化ではない!偽物だ!

近代化の波に負けず、伝統文化を守り続けて素晴らしい!

■従来の研究における「盲点」

①当事者であるカヤン族の女性たちの視点が抜け落ちていないか

②時代が変わる中で、「現地の人たちの生活や気持ちがどう変わったのか」という『長い目での変化』を無視していないか

当事者であるカヤン族の女性はどう考えているのだろう?

平田 羽菜（ひらた はな）さん
国際文化学部国際文化学科4年
（小郡高等学校出身）

参考図書:『タイのカヤン観光の成立と変遷ー観光人類学の枠組みを再考するー』（久保忠行）

広告という領域を超え、
地域や人の可能性を引き出し、
新しい選択肢を社会に届けたい。

株式会社九州博報堂
共創事業プロデュース局 プロデュース1部
ビジネスプロデューサー
落合（おちあい） 沙優（さゆ）さん

決断［No.28］ターニングポイント!

人生は選択の連続。社会で活躍する先輩たちの「決断」から学ぶ、働くことへのヒント

PROFILE
2016年
文学部外国語学科フランス語専攻
（現・外国語学部外国語学科）卒業

筑紫高等学校出身。学生時代は応援指導部チアリーダー「HEARTIES」に所属し、人を応援することの喜びを知る。広告に興味を持っていたことから、大学2年次に「マスメディア実践論」、3年次には「マスコミ講座」を受講。卒業後は地元の広告会社・株式会社西広に就職し、マーケターとして活動する。2020年には同社の事業統合により、株式会社九州博報堂の一員として再出発をする。

HISTORY

学生時代

社会や人の心を動かす広告の仕事に引かれる

街なかで目にする広告に引かれ、大学2年次に「マスメディア実践論」、3年次に「マスコミ講座」を受講。最前線で働く人たちの話を聞き、社会や人の気持ちを動かす仕事への関心がさらに高まる。就職活動では広告業界に絞って選考を受けた。



社会人1~3年目

マーケターとして地道に緻密な作業を重ねる

1年目からマーケターとして勤務。企業や自治体が抱える課題に対し、調査や集計、分析を通して広告コミュニケーションの戦略立案を行う。データ分析や仮説検証、提案資料作成など、地道な作業と向き合い続けた経験は、現在の提案力の土台となった。



社会人6~7年目

新プロジェクトのリーダーに手を挙げる

20代後半、キャリアや生き方に対する漠然とした不安を感じる日々。そんな中、九州の人々と共に未来を発想していく活動体「九州しあわせ共創ラボ」内に、九州の女性にフォーカスした活動を行う「Q女LAB」を発足し、所長を務める。自らテーマを見つけ、仲間を募り、ゼロから形にしていく面白さを知った。



社会人11年目~

広告の枠組みを超え、課題解決に挑み続ける

2026年4月からは共創事業プロデュース局に異動。マーケターとして培った経験を生かし、従来の広告ビジネスの枠組みを超えて、経営から社会課題の解決までのあらゆる領域においてクライアントの課題に対するソリューションを提案する。



広告コピーの力に引かれ、広告の世界へひた走る。

広告業界を志したのは、ある商業施設の広告コピーに魅了されたからです。たった一文で人の心を動かし、強く印象に残るメッセージを届けることができる。そんな素敵な仕事に私も携わってみたいと、興味を持ち始めました。そこで、学生時代はマスコミ業界を志す多くの学生が受ける「マスメディア実践論」「マスコミ講座」を受講。新聞社やテレビ局、広告会社など、第一線で活躍する卒業生の話を聴き、社会や人の気持ちを動かす仕事への関心がさらに高まりました。その後、初志貫徹で広告会社に絞って就活。地元の株式会社西広に入社し、1年目からマーケティング業務に携わりました。「世の中は空以外マーケティングである」。これは、最初の上司から掛けられた言葉です。私たちの仕事は、どんな業務でも視点を変えれば面白くできること、そして、自分の興味や好奇心を仕事に直接生かせる楽しさを実践的に教わりました。



ビジネスプロデューサーとしてチームの先導役を務める落合さん。「自分の“好き”が増えていくのも、この仕事の醍醐味ですね」

新プロジェクトへの挑戦は、未知への好奇心から。

入社後、転換期となったのは2020年です。世の中はパンデミック一色。時を同じくして、私たちの会社は同年4月に九州博報堂として再出発をしました。新年度の開始と同時にリモートワークも始まり、全てが新体制へ移行。戸惑いもありましたが、良い変化も訪れました。

通常業務とは別に、九州の女性たちの価値観や暮らし、幸せを研究する社内横断プロジェクト「Q女LAB（キュージョ・ラボ）」の立ち上げに参加し、リーダーを務めることに。当時は業務が確立されておらず、成果が出る保証もありませんでしたが、「九州の女性たちのリアルな声をもっと知りたい」「女性の声を企業の商品やサービスづくりに生かしたい」という思いから挑戦を決意しました。当時、私は20代後半でクォーターライフ・クライシスに陥り、漠然とした不安や焦燥感に襲われていたように思います。そんな心境もあり、自分自身への理解を深め、新たな可能性を探る覚悟で挑みました。具体的な活動は、マーケティング活動に生かせる示唆を得ることを目的に、九州の女性1000人に調査を実施。ウェブサイトに、九州女子を7つのタイプに分けた調査報告を行ったほか、調査内容を美容クリニックの事業に落とし込む提案や、食品会社の新商品開発への提案を実施。その他にも、セミナーへの登壇やメディア取材なども経験し、継続することの大変さや、組織を動かす難しさなど、多くの課題も見えてきました。実際に調査結果を反映した商品やサービスが世に出るにはまだ時間がかかりそうですが、九州の女性たちの声が必ず未来に生きることを確信しています。

九州しあわせ共創ラボ「Qラボ」 ▶ https://q-lab.jp/



「Q女LAB」の調査結果で見えてきた九州女子像に関する資料（ウェブサイトにも掲載）。7つのタイプの九州女子のイラストは、福岡在住の人気イラストレーター・isayamaxさんの描き下ろし

フランスの旅で目にした“自分らしさ”に学ぶ生き方。

正直、最初はプロジェクトのリーダーが務まるのか不安もありました。ただ、振り返ればこれまでも、自分の直感に従って、“面白そうだからやってみよう”を積み重ね、自分のキャリアを広げてきたように思います。私は自他ともに認める根っからのミーハーです。広告業界はさまざまな分野の専門家や第一線で活躍する方々と一緒に仕事ができる機会に恵まれています。だからこそ、現実的かどうかや、成功するかよりも、新たな出会いや挑戦に対するワクワク感が私を突き動かしてきました。

今年4月には新たな部署に異動し、最近は地域や人の価値観そのものに興味が向いています。九州の女性たちの暮らしやキャリアについて研究したり、社会人同士が人生やキャリアを考える場を創出したりする活動を通じて、人が自分らしく、良い意味でわがままに生きる選択肢を増やしたいと思うようになりました。最近、フランスを訪れた際には、ファッションや時間の使い方、休日の過ごし方など自分らしく人生を楽しむ大人の女性たちの姿がとても印象的でした。私自身もそんなふうに年齢を重ねながら、仕事を通して誰かを応援するだけでなく、自分自身の人生も楽しみ、周囲の人たちと互いに良い影響を与え合える存在でありたいと思います。



学生時代のチアリーディングの様子。「前歯を脱臼しながら上の人を笑顔で支えたこともありました（笑）。今となっては良い思い出です」

人生を形づくるのは
挑戦や出会いの積み重ね。

学生時代チアリーディングに打ち込んだ日々や、学部で学んだフランス語、フランス文化、さらに「マスメディア実践論」や「マスコミ講座」での友人たちとの出会い。その全てが今でも宝物です。10年の社会人生活を振り返ると、“この選択が人生を変えた”という大きな決断よりも、小さな挑戦や出会いのたびに“やってみよう”と行動したことの積み重ねが、今につながっているように感じます。学生時代は、興味を持ったことに挑戦し、人との出会いを大切にしてください。きっとその経験が自分らしいキャリアや人生につながっていくはずです。

今、必要な情報をギュッと凝縮！

就活サプリ

就活最前線 秋

就活が動き出す秋、注目のキーワードは「就活EXPO」&「AI」。

秋は、3年生の就職活動が本格化する季節です。10月に開催される「西南キャリア・就活EXPO」は、企業や業界だけでなく、最新の採用動向を知ることができる絶好の機会です。情報収集の第一歩として、足を運んでみましょう。

近年の就職活動の大きな変化といえば、AI活用です。企業ではAI面接の導入が進み、学生もエントリーシートの作成や面接対策などにAIを活用しています。しかし、AIが作成した文章は読みやすい反面、個性が伝わりにくく、採用担当者に見抜かれてしまうこともあります。AIは自分らしさを伝えるためのツールとして上手に活用することが重要です。

そこで、今回の「就活サプリ」では、就職活動でAIを効果的に活用する方法をご紹介します。

秋の就活イベント情報！

予約不要！入退室自由！私服で参加できます。

先輩内定者との相談会も同時開催！

西南キャリア・就活EXPO
～秋の合同企業説明会～

10月14日（水）～16日（金）

九州の有名企業や国内の大手企業が集結。3年生はもちろん、1・2年生も大歓迎！



就職課と就職課直属学生団体「Branch」共催で実施する、全学年対象の合同企業説明会を開催します。学生主体で企業選定から運営まで実施しており、低学年でも参加がしやすい学内最大級の就活イベントです。

同時開催の「内定者座談会」では、就活の進め方や企業選び、実体験などのリアルな話を聞くことができます。



就活ゼミナール
［選考制・ゼミ形式集中講座］

29卒講座 現在募集中！

一緒に頑張りましょう！

#全力就活 #民間 #仲間ができる

全力で就職活動に取り組む29卒募集。



就職活動に集中して取り組みたい学生を対象とした、選考制、ゼミナール形式の対策講座を実施しています。一年間を通した対策により、単なる就活テクニックの修得に留まらない、主体的な進路決定を後押ししています。共に就活に臨む、仲間づくりができることもポイントです。

29年卒対象の開講クラス
- 早期コース（月曜クラス） 開講:2年次秋頃～
- 年間コース（水曜/木曜クラス） 開講:3年次4月頃～

※詳細はSAINSポータルのお知らせをご確認ください

「就職活動は具体的に何をどう進めればいいの？」という声にお応えする「就活サプリ」。今、必要な情報をギュッと凝縮し、皆さんをサポートします。

就活AI活用例

西南流 就活AI活用術

まずは自分で書く。AIはチェックに活用。

就職活動では、自分の言葉で「書く・話す」ことで個性や熱意が伝わります。最初からAIに頼ると、自分の考えを深掘りできず、面接で答えられないこともあります。AIは文章のチェックや表現の改善に活用することで、自分らしい文章に磨きをかけることができます。

ゼロから生み出す **自分** ≫ 考えを整理する **AI**

自己PRを書く場合

❶まずは、自分で自己分析をする。
過去の経験を洗い出し、自分の強みや興味関心、自分らしさについて整理してみましょう。家族や友人、就職課のキャリアアドバイザーなどに聞く「他己分析」もおすすめです。自分では気付きにくい強みや特徴の発見に繋がります。

❷自己分析をもとに、自己PRを書く。
自己分析で整理した内容をもとに、自分の言葉で自分の強みや経験が伝わる自己PRを作成してみましょう。

❸自分で自己PRを校正する。
自己PRを読み返し、誤字脱字や分かりにくい表現はないかを自分でチェックしましょう。

❹「AI」で自己PRをチェック。
自己チェックで修正した文章の表現や構成をAIで確認してみましょう。

❺自己PRを第三者に読んでもらう。
家族や友人、就職課の職員などに読んでもらい、客観的な意見を取り入れて仕上げましょう。

例文

カフェでの接客アルバイトでは、提供時間に関するお客様からのクレームを受けたことがありました。この経験から、忙しい時間帯でもできるだけお客様を待たせないことを目標にしました。そのため、注文が増える時間帯を考えて事前に準備できることを増やしたり、レジやドリンクなど担当ごとの役割をマニュアルで整理したりして、作業の無駄を減らすように取り組みました。また、周囲のスタッフにも改善案を伝え、協力してもらいながら進めました。その結果、以前よりも店全体の流れが良くなり、お客様から感謝の言葉をいただく機会も増えました。この経験を通して、課題を見つけて改善に向けて行動することや、自分の考えを周囲に伝えながら協力して取り組むことの大切さを学びました。

AIで文章チェック！

この文章で分かりづらい部分や論理的に成立していない部分を教えて。



AIの回答

1 改善策と原因のつながりが曖昧
「なぜその改善策を選んだのか」が書かれていません。例えば、
- 注文が集中すると、役割が重なっていた
- スタッフごとに動き方が違っていた

などの課題があると、改善策とのつながりが分かりやすくなります。

2 「マニュアルで整理」が曖昧
読み手が
- 自分でマニュアルを作成したの？
- 既存のマニュアルを見直したの？
- 店長と相談して変更したの？

と疑問に感じます。主体を明確にしましょう。

3 「周囲のスタッフにも改善案を伝え」が弱い
何を伝えたのかが分かりません。例えば、
- 新しい役割の分担
- 準備の手順

などが少しでも書かれているとイメージしやすくなります。

4 成果が抽象的
「店全体の流れが良くなり」とは、具体的にどのようなことでしょうか？例えば、
- 提供時間が短縮した
- 混雑時でも対応できるようになった

など、具体性があると説得力が増します。

5 感謝された理由が分かりづらい
読み手は「提供時間が短くなったから感謝されたの？」と少し引っかかります。例えば、
- 「今日は早かったね」などのお言葉をいただく機会が増えました。

のように成果との関係を示すと自然です。

AIで面接対策も！

この文章から想定される面接の質問を教えて。



AIの回答

1 原因は1つだったのでしょうか？他の改善方法は考えましたか？
（意図）課題を分析する力をチェック。

2 店長には相談しましたか？周囲をどうやって巻き込みましたか？
（意図）主体性やリーダーシップをチェック。

3 提供時間はどのくらい短くなりましたか？
（意図）成果を客観的に説明できるかをチェック。

4 他の経験でも、その強みを発揮したことはありますか？
（意図）学びを他で実践できたかをチェック。

5 一番苦労したことは何ですか？
（意図）困難にどう向き合うかをチェック。



悩んだらいつでもおいで

就職課

就職課公式マスコットキャラクター「しゅーしょくん」



問い合わせ
キャリアセンター 就職課
場所:2号館3階
TEL:092-823-3321

少年の心に寄り添う日々が、幼い頃からの憧れを、確かな夢へ。将来は強く優しい警察官を目指す。

法学部法律学科
4年 林 美羽（はやし みゆ）さん
（明治学園高等学校出身）

Profile〉〉〉
3歳から空手を12年間続け、中学、高校ではバスケットボール部に所属するなど、スポーツに打ち込む日々を送る。大学では、幼少期からの夢である警察官を目指すだけでなく、今の自分にできることとして福岡県少年警察ボランティアに挑戦。ボランティア活動と並行し、体力づくりのトレーニングや体調管理、アルバイト、さらには福岡県警察官採用試験の勉強など忙しい毎日を送る。

キーワード
福岡県少年警察ボランティア

学業に加え、スポーツやボランティアなど、
さまざまな活動に熱心に打ち込む学生の日常に密着。
輝く姿の裏側にある努力と苦悩、そして熱い思いを、今ここに。

学習支援などを通して、少年の立ち直りを支援する。

大学2年次から福岡県少年警察ボランティアに学生サポーターとして参加しています。福岡県少年警察ボランティアとは、主に少年の非行防止と健全育成を目的とし、福岡県警察や地域住民と連携しながら活動するボランティア団体のことです。中高生と年齢が近い大学生を中心とした私たち学生サポーターが、少年たちと農業体験やスポーツ大会、学習支援などを共に体験し、少年たちの立ち直り支援を行っています。

私は最初、非行少年に対して怖いというイメージを持っていました。しかし、彼らが実は家庭環境の問題や不安と一人で向き合っていることを知り、彼らに対する恐れは、「力になりたい」「守りたい」という気持ちに変わりました。

私が主に担当しているのは学習支援です。初めて深く関わりを持ったのは、金髪姿で長いネイルをした中学3年生の女の子でした。最初の頃は何度話し掛けても目も合わせてくれず…。しかし、心を開いてくれるまで根気強く向き合い続けました。勉強の前に彼女の趣味やファッションなど、興味を引く話題を出して会話のきっかけづくりを意識。関係性が築かれると、勉強への姿勢に変化が現れました。結果、半年後の受験で彼女は第1志望の高校に合格。自分のことのようにうれしかったです。

相手の立場になって考える。その一歩が人を救う手立てに。

この活動を通じて学んだのは、一人ひとりに向き合い、寄り添うことの大切さです。見た目や問題行動だけで判断するのではなく、相手の心の中をしっかり見つめることが重要だと気付きました。彼らの行動の裏には、「夜は親が働きに出ていて一人だから」「家にいてもつまらないから」「友達と遊びたいから」といった悩みや好奇心が複雑に入り混じっているように感じます。そこにあるのは、やり場のない思いや、居場所のなさ、さらには自分の存在を肯定してほしいという気持ちです。弟と妹を持つ私も決して他人事ではなく、社会全体の課題であるとも感じました。実際に学習支援で勉強を見ていた少年から、「勉強している時だけ、認めてもらえている感じがする」という言葉を聞いたことがあります。褒めてほしい、自分に関心を向けてほしいという、彼らの内に秘めた切ない思いを、この活動を通じて支え続けていきたいです。私自身も、継続力や忍耐力、洞察力、そして行動力をこの活動を通じて学び、成長させてもらいました。

信頼される警察官となり、助けが必要な人を守りたい。

将来は警察官になることが目標です。その思いは3歳の頃から揺らぐことなく、ずっと同じ夢を追い続けてきました。警察官のように強くなるために3歳から極真空手を習い、警察官の職務にも役立つように大学では法学部に進学。大学2年次の夏休み前から約1年半の間、学内の公務員試験講座も受講しました。現在は週4回程度、ジムでのウェイトトレーニングやランニング、さらには大濠公園で20kmの長距離走も行い、体力向上に努めています。

今年5〜7月にかけて福岡県警察官の採用試験が行われ、一次試験では筆記試験、二次試験では面接と体力試験がありました。将来は、警察官として少年の非行防止や被害防止に携わるために、生活安全課や少年課への配属を希望しています。近年、少年たちにとって身近なSNSや秘匿性の高いツールなどを悪用し、少年を危険な犯罪に加担させるトクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）が問題になっています。非行防止から被害防止へと視点を広げ、少年たちが犯罪に加担しないように見守ることも警察官の重要な役割です。私は、3歳の時に夏祭りで迷子になり、巡回中の警察官が助けてくれたことがきっかけで警察官を目指すようになりました。私にとって警察官は、孤独感でいっぱいだった時に助けてくれた、頼もしくてかっこいい存在。いつか私も、不安や悩みを抱えた少年たちに救いの手を差し伸べられる強くて優しい警察官になりたいです。そして、これまで支えてくれた多くの人への感謝を忘れず、一人でも多くの少年が安心して成長できるような環境づくりに貢献していきたいと思います。





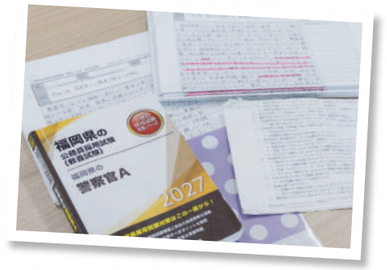




学生サポーターとしての活動が評価され福岡県警や各警察署から多くの感謝状を授与。



12年間続けた極真空手で黒帯を取得！小学校・中学校では県大会で優勝も



福岡県警察官の公務員試験に使った教材。就職活動で民間企業は受けず、福岡県警察一本に絞って勉強した。

これからトライしたいこと



警察官は体が資本。将来のために体調管理を徹底。

警察官は体力が求められる職業です。これからも筋力トレーニングやランニングを続けるほか、食事の栄養管理も徹底していきます。大学生になってからは、家族の毎日の食事作りは私が担当しているため、タンパク質を多めにしたり、食物繊維が摂れるようにしたりと、自分や家族の体調に合わせながら献立をアレンジ。試行錯誤しながら頑張っています。

社会で起こっている
さまざまな事象を先生方が
独自の視点で語ります。

教授のヨノナカ考



経済学部国際経済学科
角（すみ） オリガ 准教授

PROFILE

博士（経済学）。大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程・後期課程修了。専門は国際貿易の理論的研究、貿易政策、倫理的貿易・フェアトレードの経済分析。担当科目は「国際経済政策」、「Global Liberal Arts（Economy）」、「経済学入門」、「経済英語Ⅲ」など。

インフレとエシカル消費

世界的な物価上昇により、企業のコストが増加し、家庭の実質所得や購買力も低下しています。このような状況の中で、エシカル消費や環境配慮型消費が今後どのように変化するのかを考えてみましょう。

インフレになると、家庭の実質所得が減少するため、商品を選ぶ際にはより安い商品を購入する行動が合理的であると経済学では考えられています。一般に、エシカル商品（フェアトレードのチョコレートやエコラベルが付いた果物など）は通常の商品より価格が高いため、インフレ率が上昇すると、消費者は環境や社会への配慮よりも、「できるだけ安い商品を買いたい」と考えるようになり、これまで国内外で広がってきたエシカル消費が減少する懸念があります。

そのため、特にインフレ率が高い時期においても、持続可能なビジネスが維持され、エシカル消費が継続的に行われるようにするためには、どのような経済政策が必要なのかを経済学の観点から考える必要があります。これは今後の重要な課題の一つといえるでしょう。

NEWS 04 読書教養講座を開催しました（作家・木村友祐さん）



6月26日（金）、作家としてご活躍されている木村友祐さんを講師に迎え、「文学で歪みを問う」をテーマに、読書教養講座を開催しました。会場となった西南コミュニティーセンターには、約100人の教職員や学生、一般の聴講者が来場しました。

木村さんは、2009年に『海猫ツリーハウス』で第33回すばる文学賞を受賞し作家デビュー。2019年に発表した『幼な子の聖戦』は第162回芥川賞候補作となり、最新作には『殺しの時代における都市型狩猟の観察』があります。

講演では、柿木教授および学生とのトークセッションが行われ、『海猫ツリーハウス』を読んだ学生からは、「登場人物の感情の生々しさや東北弁の温かさ、その土地ならではの空気感が印象的だった。作品にはどのくらい実体験が反映されているのか」との質問が寄せられました。これに対し木村さんは、身近にいたある兄弟が小説の主要人物のモデルとなっていることを明かしながら、木村さん自身、性格が対照的な兄がいて、別の兄弟のことを描くことで、ほどよい距離感で自分と兄との関係性も重ねて描くことができたのではないかと、実体験とフィクションの間合いについて語りました。

また、『幼な子の聖戦』を読んだ学生からは、「方言の持つ力強さや、理不尽で鬱屈した地方社会の描写が印象に残った」との感想とともに「『幼な子』という言葉に込めた意味とは何か」との質問が寄せられました。これに対し木村さんは、小説では、その社会の歪みに対し、無垢な心を残した主人公がある事件を起こすが、無垢や純真さが反転して過激な行動につながる場合があるという両義性を「幼な子」という言葉に込めたと語りました。

NEWS 05 「学生創発プロジェクト2026」最終審査会を開催～学生主導の社会課題解決に向けた新たな取り組み～



6月24日（水）、西南コミュニティーセンターにて、「学生創発プロジェクト2026」の最終審査会を開催し、8つの学生団体のうち6団体の取り組みが採択されました。本プロジェクトは、学生の創造性と知的探究心を支援し、革新的なアイデアの実現を後押しする本学独自の取り組みで、採択団体には上限20万円の活動資金が支援されます。

最終審査会では、団体ごとに「国際社会への貢献」「産業界との連携」「地域社会との連携」「幼保小中高との連携」「その他独自テーマ」の5つのテーマから選択したカテゴリーでプレゼンテーションを実施。課題解決のアイデアや想い、実現のための資金計画、活動スケジュールなどを熱弁しました。

本プロジェクトは、学生が社会課題を主体的に発見し、解決策を考案・実行する貴重な機会として位置づけられています。採択された6団体の今後の活動が、新たな価値をもたらすことが期待されます。

NEWS 02 アメリカンフットボール部が平和台ボウルで3年ぶりに優勝しました



5月31日（日）に平和台陸上競技場で行われた平和台ボウルにおいて、アメリカンフットボール部が見事3年ぶりの優勝を果たしました。なお、本大会では5連敗を喫していた九州大学に勝利しての優勝となり、チームにとって大きな飛躍となりました。

決勝戦では、試合開始からわずか13秒でタッチダウンを許し先制される厳しい立ち上がりとなりましたが、その後はオフェンス・ディフェンスともに立て直し、着実に得点を重ね、最終的には38－21で勝利し、優勝を決めました。本大会では、以下の3名が個人表彰を受賞しました。

- スキル部門　木内奏汰さん（RB）（経・経4年）
- ライン部門　西楓賀さん（OL／DL）（商・経2年）
- スペシャル部門　山本主道さん（LB）（人・心4年）

アメリカンフットボール部は、「応援してくださる皆様への感謝の気持ちを忘れず、秋シーズンも必ず『九州制覇』を成し遂げられるよう、チーム一丸となって精進してまいります」と抱負を述べました。

引き続き、アメリカンフットボール部への温かいご声援をよろしくお願いいたします!



NEWS 01 準硬式野球部が第78回全日本大学準硬式野球九州選手権大会で準優勝、全国大会に出場しました

5月23日（土）～28日（木）に行われた、第78回全日本大学準硬式野球九州選手権大会において、準硬式野球部が見事準優勝を果たしました。これにより、7年ぶり21回目となる全国大会に出場しました。

5月28日（木）、九州選手権大会優勝を懸けた決勝戦、福岡大学との試合では、5回まで0-0と、両校一歩も譲らぬ展開となります。迎えた6回に2点を失いますが、先発の亀田投手はその後も好投を続け、9回を4安打2失点に抑えます。何とか追いつきたい本学は、9回に一打同点の場面を作りますが、あと一歩及ばず、結果は0－2の惜敗となりました。悔しい結果とはなりましたが、最後まで諦めずに戦い抜いた末、九州選手権準優勝となり、九州地区代表として全国の舞台に挑みました。また、今大会で好投を続け、チームを準優勝に導く活躍を見せた亀田遥士さん（商・経4年）が、見事「優秀選手賞」を受賞しました。

引き続き、準硬式野球部への温かいご声援をよろしくお願いいたします!



NEWS 03 空手道部2名が全日本学生空手道選手権大会への出場を決めました!

5月17日（日）、「第67回全九州学生空手道選手権大会」が佐賀県神埼市で開催され、本学空手道部の原龍翔さん（商・商3年）が“男子個人組手－65kg級”、巻円乃さん（外・外2年）が“女子個人組手－55kg級”に参加し、「第70回全日本学生空手道選手権大会」への出場を決めました。

本大会は九州地区の大学が参加する個人戦の大会であり、今年は男子17校、女子13校が参加しました。

大会を終えた原さんは「初戦から攻めることができ、冷静に試合を運ぶことができた。また、自分の弱点を改善することを意識して練習に取り組んできたこと、周囲のサポートのおかげで今回の結果につながったと思う。今後も弱点の改善に努め、全国大会で一回でも多く勝てるように頑張りたい」と大会を振り返りました。また、巻さんは「全国大会出場が決まりとても驚いたが、機会をいただいたことに感謝し、これからも日々の練習に取り組みたいと思う。全国大会では実力を最大限に発揮できるよう頑張りたい」と意気込みを語りました。

引き続き、空手道部への温かいご声援をよろしくお願いいたします!



世界がキャンパス 私の留学STORY

大学からもほど近い
世界遺産のケルン大聖堂



University of Cologne

留学先協定校

ケルン大学［ドイツ］

留学期間：2025年3月～7月

1388年、ローマ教皇ウルバヌス6世の指示のもと、ドイツ有数の都市・ケルンに設立された総合大学。
医学、哲学、経済など6つの学部からなり、ドイツを牽引する研究大学の一つとして知られる。



ケルン大学のメインキャンパス。近くにトラムの駅やバス停が複数あり、利便性が高い

語学力への自信に直結。
一番成長を実感したのは、
周囲の目を気にせず
発言できる精神力だった。





地元のFCケルンのユニフォームをゲット。サッカー観戦は良い思い出です

経済学部国際経済学科
4年 岩山（いわやま） 開智（かいち）さん
［ 東稜高等学校出身 ］

Q1 何を学びましたか？

CGSPという留学生向けプログラムで、英語で実施される授業3つと、ドイツ語初級を履修しました。英語の授業は「人々の生活に関すること（ウェルビーイング）」「移民」「法律」といった専門的なテーマを扱うもので、約20人の留学生と一緒に学びました。ドイツ語に関しては初級者クラスからスタートし、週2回リモートで学習。友人に助けられながら、簡単なコミュニケーションが取れるレベルまで成長しました。

Q2 留学した大学の魅力を教えてください。

世界中から留学生が集まり、ほぼ毎日留学生向けのイベントが開催されており、さまざまな国籍の友人と仲良くなれる機会があります。また、日本語学科があるため、日本人留学生との交流会も毎月実施されていました。

さらに、広大で美しいキャンパスも魅力です。メインキャンパスの中央にある芝生広場は、読書をしたり、夕方になるとお酒を飲んだりと、学生同士が自然と交流できる憩いの場所でした。

Q3 留学中の印象的なエピソードはありますか？

ドイツでは、駅の改札機を通らずに電車に乗ることや、飲料用のペットボトルや瓶などを回収機に入れると返金されるなど、日本と異なる公共設備や習慣の違いに驚きました。





各地のサッカー観戦で手に入れたマフラーの数々



旅で訪れたロンドン。正面右手に見えるのはビッグベン



よく一緒に遊んだ日本語学科の友人たちとの一枚

完璧な英語を話すことより大切なことを学ぶ。

私が留学を志したきっかけは、旅行代理店を経営する父に、幼少期からベトナムやタイ、セブ島などさまざまな国へ連れて行ってもらった経験にあります。海外の文化や語学への興味が自然と芽生え、高校では国際コースに進学。英語に加え、中国語も学びました。大学進学後は早く留学したい思いがあった一方、目の前のことで忙しい毎日。気付けば就職活動の時期が迫っていました。このままでは後悔が残ると感じ、一念発起して留学を決意。数ある協定校の中でも、ケルン大学は就職活動に支障が少ない時期に留学できる点に魅力を感じました。また、ドイツは私の大好きなサッカーが盛んであること、非英語圏でありながら英語を話す人が多い点も魅力でした。

約5カ月間の留学生活。最初の頃は、海外の学生たちの積極性に圧倒される毎日でした。授業の大半はディスカッション形式で、現地で出会った学生たちはみな、自信を持って発言していました。時には議論が白熱し、ある学生の発言に別の学生が反論する場面も。日本ではあまり見ない光景に驚きました。

一方で私は、法律など専門的な科目では専門用語も多く、英語の聞き取りで精一杯になることもしばしば。さらに、自分の意見が正しいかどうかに気を取られ、発言をためらいがちでした。しかし、現地の先生からは他の学生と同じように意見を求められ、慣れるまでに時間はかかりましたが、徐々に発言できるようになりました。完璧な英語でなくても、話し始めればみんな真剣に耳を傾けてくれます。内容の正しさや英語の正確性よりも、自ら発言することの重要性を友人たちから教わりました。今では周りの目を気にせず発言する精神力を身に付けることができたと感じています。

忙しくも充実した生活。ヨーロッパを巡る旅にも。

日々の勉強と、就職活動の両立は予想以上に大変でした。夏のインターンシップのエントリーシートを数十社分書いたり、時差の関係で深夜に面接を受けたり…。生活リズムの乱れや将来への不安に悩まされることもありましたが、何とか乗り越えました。忙しい一方で、旅を通してヨーロッパの文化を体験する時間も楽しみにしていました。ビザ取得の都合で5月に集中的にヨーロッパ各国を旅行。オランダやロンドン、イタリア、スペインなどを巡り、大好きなサッカー観戦も満喫しました。旅の間も英語で困ることはなく、この時点で実践的な英語力が身に付いた実感がありました。

留学中、語学力が向上すると同時に、語学学習への危機感も抱いていました。ケルン大学には世界中から留学生が集まりますが、ほとんどの学生が母国語と英語を流暢に操り、さらにもう1言語話せる人も少なくありません。その現実を目の当たりにし、強い危機感を覚えました。この時、社会人になっても継続して語学学習に励むことを強く決意。大学卒業後は、この留学で身に付けた英語力を生かし、企業の国際競争力を高める海外事業に携わりたいと考えています。そして、いつかは企業の収益の柱となる事業を築いていくことが目標です。



友人たちと訪れたバーで記念撮影



一緒にご飯を食べたり、クラブに行ったりした留学生の友人たち

Point

テキストとの相性の良し悪しは重要！



自分に合う教材との出合いでTOEFLの点数がアップ!

留学に向けた語学試験では、TOEICで870点、TOEFL ITPで547点を取得。特に留学に重要なTOEFLは『TOEFLテスト英単語3800』というテキストが大変役に立ちました。スピーキングに関しては、大学2年次に留学生バディ制度に挑戦したり、そこから留学生の人脈を広げたりして、日常的に英語の会話量を増やし、日々コツコツと英語脳を鍛えました!

国際文化学部
MY ANSWER

自分らしさ × 他者とのつながり

「自分らしさ」は自分の内面を凝視しても見つからず、他者とのつながりの中で立ち現れてくるものです。

“あるがまま”よりも重視される“つくられた”自分らしさ。

現代の日本社会は、若い人たちに「自分らしさ」を求め過ぎているように思います。就職活動はその典型です。企業が求めるのは、自由な「自分らしさ」ではなく、自社の理想の人物像に重なる「自分らしさ」です。学生はそれに応えようと、「自分らしさ」をひねり出しているように感じます。SNSでも、自分を演出したり、時には炎上を気にして表現を加減したりしながら発信することが当たり前になっています。本当に私たちは、「自分にしかできないこと」を自己の内面に見つけ、それを発信しなければ、この社会で生きていけないのでしょうか。

現代では、「自分らしさ」を探すことが、他者との比較とほぼ同義になっているように思います。他者との比較は劣等感や焦燥感を生みやすいものです。「自分らしさ」を探していたはずが、他者との比較にとらわれ、自分が他者より秀でている点を血眼になって探していたという人もいるかもしれません。さらに、他者より秀でたところが見当たらなければ、そのことまで含めて積極的に「自己肯定」することが求められます。そうまでして見いだしたものは、本当の「自分らしさ」なのでしょうか。自己を肯定も否定も発信もせず、ニュートラルにただ静かに存在することすら、「自己肯定が足りていない」とみなされるとは、なんとも生きづらい社会です。

私が研究しているアフリカの一部の地域では、「年齢階梯集団」と呼ばれる世代ごとの集団を重視する社会があります。そこでは、年齢グループごとに社会の中で求められる役割があり、さらにそのグループの中でも役割や立ち位置が存在し、それを果たすことが何より大切だと考えられています。自分の希望ではなく、すでに社会の中で役割が定まっているなんて不自由だと思う人もいるかもしれません。しかし、「自分の思いのままに生きること」よりも、「自分が生きる社会で、周囲から求められる立場で自分の良さを生かすこと」が大切な社会もあるのです。それは決して「自分らしさ」の放棄ではありません。文化が違えば、「自分らしさ」の捉え方も異なるのです。

「自分らしさ」は、自分ひとりでは見つけられない。

私たち人間は、ゲームのキャラクターのように数値化・明文化される「スペック」で構成されているわけではありません。また、他者と明確に区切られて独立した「実体」があるわけでもありません。本来の「自分らしさ」は他者との比較ではなく、他者との関わりの中で生まれるものです。

文化人類学における南アジアやメラネシアの研究には、個人は他と不可分（individual）な1つの存在ではなく、一緒に食事をしたり、言葉を交わしたり、儀礼を共にしたりといった他者との関わりを通じて成り立つ「分割可能な人格（dividual）」として捉えられているという分析があります。つまり、「自分」とは他者から独立した存在ではなく、関わる相手によって、「自分」も流動的に変化するという考えです。例えば、恋人といる時の自分と家族といる時の自分が違うことは、ごく自然なことです。それを1つの「自分らしさ」に集約しようとすること自体に、無理があるのかもしれません。

もちろん、他者と自分を比較して、自分の社会における位置付けを俯瞰（ふかん）してみるのも良いでしょう。しかし、比較は他者とのつながりの1つに過ぎません。そもそも、自分に固定した実体がないのであれば、「自分らしさ」は内面を凝視しても見つからず、他者とのつながりの中で初めて見えてきます。「あなたはいつも私を支えてくれ、あなたが苦手なことは私が支えよう」。そんな持ちつ持たれつの関係の中で、「自分らしさ」は立ち現れます。そうして人と人との間に生まれるお互いの「自分らしさ」を、ゆるやかに尊重し合う。そんな関係を築くことは難しくも幸せであり、それこそが私たち人間が人間である所以だと思うのです。

学生の皆さんは、この先も折りに触れて「自分らしさ」に向き合うことがあるでしょう。ぜひ、他者との関わりの中にある「自分らしさ」を見つけてください。そのためには、社会の「お客さん」ではなく、社会の「一員」として、世の中のさまざまなことを問うてください。疑問に思ったことを他者と議論し、どうすれば互いがより良く生きられるかを考えてみてください。その積み重ねの中で、自分らしさは立ち現れるはずです。



国際文化学部国際文化学科
伊東（いとう） 未来（みく） 准教授
大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。
研究分野は、文化人類学、アフリカ地域研究。

自分らしさ × ？

社会や時事問題に関する素朴な疑問に、2人の教員が答えます。それぞれの専門領域から導き出された「マイアンサー」とは？きっとあなたの知の扉を開いてくれるはずです。

MY ANSWER

人間科学部
MY ANSWER

自分らしさ × コーチング

「自分らしさ」は自らつくるもの。「どう在りたいか」という目標を持ち、それを指針として行動を積み重ねることが望む「自分らしさ」につながります。

過去を振り返るだけでなく、未来志向で自分らしさを考える。

今のあなたの「自分らしさ」は、どのようにしてつくられてきたのでしょうか。これまで経験してきたことの積み重ねによって、今の「自分らしさ」が育まれてきたのではないでしょうか。そうであれば、未来の「自分らしさ」も、これから経験することによって、形づくられていくはずです。つまり、「自分らしさ」は可変的なものであり、自らの行動や選択によって、「自分らしさ」を「自分の望む在り方」に近づけていくことができると考えられます。

では、望む「自分らしさ」に近づくためには、どうすれば良いのでしょうか。そのヒントを私の研究分野であるスポーツコーチングの観点から考えてみます。コーチという言葉は「馬車」が語源で、人を目的地まで運ぶという意味があります。そこから転じて、コーチングは、その人が目標を達成できるように支援することを目的としています。近年のスポーツコーチングは、勝利至上主義への批判から、競技力だけでなく、人格形成や人間力を高めることも同時に目標とする「ダブルゴール」という考え方が広がっています。

では、この2つの目標は何が違うのでしょうか。前者は「どうなりたいのか」という目標です。「優勝する」「新記録を出す」といったような、結果が目に見えるものです。一方、後者は「どう在りたいか」という目標で、大事にしたい考え方や価値観といった目に見えないものです。例えば私が指導をしているラグビー部では、「九州二強」という競技に関しての目標を持つ一方で、チームの理念として「人としての成長」を掲げています。日々の行動や取り組みが、「人としての成長」につながっているのかを行動の指針としており、立ち返るよりどころになります。また、一人ひとりがその理念を意識して行動することで、それがチームの文化となり、「チームらしさ」を形づくっていくことにつながります。

「自分らしさ」も同様に、まずは「どう在りたいか」という目標を持つことが大切です。誰かに与えられた目標ではなく、自分で考え、見出した目標だからこそ、行動する原動力となります。そして、日々どのような行動を取れば、目指す自分に近づけるのかを、自分自身をコーチングしていくことが、望む「自分らしさ」を育んでいくことにつながります。

「自分らしさ」を考えるとき、過去を振り返ることはもちろん大切です。しかし、「こう在りたい」という未来の自分を思い描くことも、「自分らしさ」を育む大切な視点なのです。

置かれた環境の中で、「在りたい自分」を目指す。

「どう在りたいか」という目標を立てた後、どのように行動すれば良いか悩んでしまう人もいるでしょう。確かに、行動を大きく変えることは簡単ではありません。大切なのは、スモールステップの積み重ねであり、日常生活の中の小さな選択を変えていくことが、後の大きな成長につながります。「信頼される人間である」という目標を持つのであれば、何らかの選択を迫られた時に、信頼される人間であればどのように行動するだろうかと思いめぐらせてみてください。その結果として例えば、時間厳守や提出物を期限内に出すなど、面倒と感じることにも前向きに取り組んでみる。その小さな積み重ねが望む自分へと近づけてくれます。

また、その過程では、自分自身を褒め称えることも大切です。どんな小さなことでも、「これくらい」と思わず、「これができた」と自分の成果や成長を認めることが継続の力となります。

「どうなりたいか」という目標は結果であり、誰もが実現できるとは限りません。しかし、「どう在りたいか」は、結果に左右されるものではありません。例えば就職活動で志望した企業や業界の内定を得ることができなかったとしても、「どう在りたいか」という目標は変わらず持ち続けることができます。それぞれの環境の中で目標に沿った行動を続けることで、望む「自分らしさ」へ向かって成長していくことができるのです。

そのためには、まずは勇気を持ってコンフォートゾーンの外へ一歩踏み出しましょう。失敗を恐れて、安全で居心地の良い場所にとどまっていては、何の変化も起こりません。時には傷ついたり、落ち込んだりすることもあるかもしれません。しかし、身をもって体感した経験はあなたを大きく成長させ、かけがえのない「自分らしさ」を形づくってくれるはずです。



人間科学部児童教育学科
村上（むらかみ） 大記（たいき） 准教授
筑波大学大学院人間総合科学研究科
体育学専攻博士前期課程修了。
研究分野は、スポーツコーチング。

#198
interview with OB/OG

こんにちは先輩

有限会社ウィロー／商品プランナー

目指すのは、世代を超えて愛される商品づくり。
企業の伴走者として利益と成長を支え続ける。





〈 Profile 〉

浅羽（あさば） 雄一（ゆういち）さん
（西南学院高等学校出身）

1990年
文学部児童教育学科
（現・人間科学部児童教育学科）卒業

「こどもびいる」をはじめ、数々のヒット商品を生み出してきた
商品プランナー・浅羽雄一さん。デザイナーの奥様と共にアイデアを形にし続けています。
そんな浅羽さんに学生時代の思い出やものづくりへのこだわりを伺いました。

History

〈卒業1年目〉
旅行会社に入社し、千葉へ。
始発電車で出社し、終電で帰宅する毎日に未来はないと感じ、4カ月で退職。

〈卒業2年目〉
オーストラリアの食肉メーカーに就職。
ラム肉の日本への輸出を担当していたが、部門閉鎖により、入社2年目で退職。

〈卒業3年目〉
光ファイバーの部品を作るメーカーに転職。
営業として海外出張の機会が多くなるにつれ、「旅の虫」が騒ぎ出し、29歳で退職。

〈卒業7年目〉
キャンピングカーで世界20カ国を巡る。
フィジーでもんじゃ焼き店のオーナーとの出会いを機に、飲食業へ転身。

〈卒業9年目〉
博多区美野島にもんじゃ焼き店をオープン。
きめ細かなサービスが評判となり、繁盛店に。
既存の炭酸ジュースを「こどもビール」としてメニュー化すると、たちまち大人気に。

〈卒業14年目〉
「こどもビール」を商品化。
「こどもびいる」として飲食店限定で販売を開始。
その後、条件付きで販路を拡大。

〈卒業16年目〉
「こどもびいる」が大ヒットし、「2005年地方発ヒット商品」に選出される。
これを機に企業からの商品企画の依頼が相次ぎ、有限会社ウィローを設立。
商品プランナーとしての活動をスタートさせる。

〈卒業20年目〉
商品企画の仕事が多忙になったため、本業を商品プランナー一本に絞る。
同時に能古島へ移住。

〈卒業36年目〉
コンビニエンスストア「ノコマート」を開業。
食品や雑貨をはじめ、
能古島限定ナイダーや
ノコマートグッズなども販売。

中学生の頃から自転車で一人旅をしていたこともあり、学生時代も各地を旅していました。印象に残っているのは、年2回、長期休暇を利用して挑戦した西表島のユースホステルでの住み込みのアルバイトです。1泊3食付きで日給1000円。インターネットがない時代だったこともあり、島を訪れるのは個性的な旅人ばかり。インドを放浪してきた人や株で生活費を稼ぎながらホテル暮らしをする人、海外の旅行者など、彼らとの交流は刺激的でした。その影響もあり、次第に興味は海外へ。大学3年次には1年休学し、オーストラリアへのワーキングホリデーに挑戦。渡航当初は英語もほとんど話せず、最初の1週間は唯一簡単な英語が通じたマクドナルドでチーズバーガーばかりを食べていたことも。それでも現地での生活を重ねる中で得た、「何とかなる」という根拠のない自信が人生の下支えになっています。

見知らぬ国へ飛び込んで得た根拠のない自信が人生の財産に。

「あったら面白そう」を形に。人生を変えた「こどもびいる」。

20代は、旅行業界や食品業界など、さまざまな業界を渡り歩きました。業界は異なっても、一貫していたのは海外に関わる仕事。3社目の通信機器メーカーでは海外営業を担当し、充実した日々を送っていましたが、海外で仕事をするうちに旅への思いが再燃し、30歳を前に会社を退職。約1年かけて世界20カ国を巡りました。

この旅で転機となったのが、フィジーでのもんじゃ焼き店を営む社長との出会いです。この縁をきっかけに、帰国後は名古屋でもんじゃ焼きの修業を積んだ後、福岡でもんじゃ焼き店を開業しました。

実は、私の商品第1号となる『こどもびいる』は、この店から誕生しました。当時、ドリンクメニューを充実させようと、全国的に珍しい小瓶入りの炭酸飲料「ガラナ」を提供していました。そんな中、「宮崎では子どもたちはガラナで乾杯する」という話を従業員から聞き、「こどもビール」と書かれたラベルを自主制作。手作業で張り替えて提供したところ、店で大人気に。それならば商品化しようと、佐賀県の飲料メーカーと共同開発したのが、『こどもびいる』です。

当初は、経営するもんじゃ焼き店でのみ販売していましたが、飲料メーカーから正式販売の打診を受け、条件付きで承諾しました。その1つが、「販売先は飲食店のみ。スーパーやコンビニエンスストアなどの量販店には販売はしない」ということ。どこでも買えるようになれば、商品の価値が下がる。一方で、HANDSのような個性のある店舗での販売は積極的に展開し、売り方にこだわりました。

その結果、『こどもびいる』は発売初年度で100万本を突破。日経トレンディ誌の「2005年地方発ヒット商品」にも選出されました。この反響をきっかけに、さまざまな企業から商品開発の相談をいただくようになりました。私自身、商品プランナーという仕事を目指していた訳ではありませんでしたが、人との出会いやご縁が、人生の軸となる仕事へと導いてくれたのだと思います。

報酬は出来高制。売れる責任を、共に背負う。

私の商品プランニングでは、企画費やデザイン費はいただかない場合もあります。その場合、報酬は売れた分だけで、売れなければ報酬はゼロです。この方法でビジネスをするのは、信用できる相手だけです。「どうすれば売れるのか」を一緒に考え、売れるまで責任を持って商品を育てていく。このスタイルにこだわるのは、企業と本音で向き合い、同じ目線で伴走したいからです。だからこそ、一瞬で消えていく商品ではなく、子や孫の世代になっても親しまれる商品を作ることが私の目標です。その上で、企業と長く信頼関係を築き、単に売上向上だけではなく、その企業の未来をつくる商品を開発したいと考えています。



ノコマートでは、浅羽さんが企画した能古島限定の商品を販売

昨年は新たな挑戦として、暮らしている能古島でコンビニエンスストア「ノコマート」を開業しました。離島の買い物環境を支えたいという思いで始めた店は、今では島の人たちの交流の場として親しまれています。また、島のオリジナルグッズの制作を通して、観光を盛り上げることもやりがいの1つです。

私は大学という場所は、「意味のある無駄な4年間」だと思っています。子どもでも大人でもない特別な時期に、多くの人と出会い、語り合い、悩み、挑戦した経験が、今の自分の土台になっています。自由な時間がある今だからこそ、人と出会い、さまざまな場所を訪れ、多くの経験をしてください。そこで得た経験や人とのつながりは、たとえすぐに役立たなくても、将来の自分を支える財産になるはずです。

私の座右の銘

経済なき道徳は戯言であり、道徳なき経済は犯罪である。



二宮尊徳の言葉です。ノコマート開業時に補助金の活用を勧められましたが、補助金頼みでは長く地域を支えられません。事業として利益を生み、その結果として地域にも貢献する。それがノコマートの経営の指針です。

[西南学院の財政について（2025年度決算［学院全体］）]

学校法人は、私立学校法に基づき、学校法人会計基準の定めに従って会計処理を行い、計算書類（決算書）を作成する必要があります。本学院の2025年度決算は、5月29日に監事および会計監査人の監査を終了し、6月25日の定期理事会において承認されました。ここでは、事業活動収支計算書と貸借対照表について、その概要をご報告いたします。詳細につきましては、学院ホームページをご覧ください。

事業活動収支計算書（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

（単位：百万円）

科目			予算	決算	差異
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	10,259	10,226	33
		手数料	499	515	△ 16
		寄付金	107	111	△ 5
		経常費等補助金	2,951	2,912	38
		付随事業収入	312	318	△ 5
		雑収入	371	388	△ 16
		教育活動収入計	14,499	14,470	29
	支出	人件費	7,760	7,635	125
		教育研究経費	5,349	4,928	421
		（内、減価償却額）	1,215	1,215	1
		管理経費	849	740	108
		（内、減価償却額）	129	129	△ 0
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	13,959	13,304	655
		教育活動収支差額	541	1,166	△ 625
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	219	251	△ 32
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	219	251	△ 32
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	219	251	△ 32
		経常収支差額	760	1,417	△ 657
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	△ 0
		その他の特別収入	27	49	△ 22
		特別収入計	27	49	△ 22
	支出	資産処分差額	6	82	△ 76
		その他の特別支出	471	471	△ 1
		特別支出計	477	553	△ 77
		特別収支差額	△ 449	△ 504	55
		予備費	81		81
		基本金組入前当年度収支差額	229	913	△ 684
		基本金組入額合計	△ 781	△ 1,387	606
		当年度収支差額	△ 552	△ 474	△ 77
		前年度繰越収支差額	△ 956	△ 956	0
		基本金取崩額	0	0	0
		翌年度繰越収支差額	△ 1,508	△ 1,431	△ 77
参考		事業活動収入計	14,746	14,770	△ 24
		事業活動支出計	14,517	13,857	660

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「その他の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、収支の均衡状態を示すものです。以下では2025年度対前年度決算値に対する増減を主に説明しております。

教育活動収入においては、2025年度の大学学費改定により、学生生徒等納付金が前年度より0.8億円増加しました。また、高等教育修学支援制度の対象拡充（多子世帯への拡大）等により、経常費等補助金が前年度より8.9億円増加しました。この結果、教育活動収入計は前年度より10.0億円増加し、予算比では概ね計画どおりに推移しました。

教育活動支出においては、人件費は76.3億円となり、経常収入に対する割合は51.9%と全国平均（50.9%）を上回る水準となっています。教育研究経費は前年度より8.5億円増加しており、主として高等教育修学支援制度の拡充に伴う奨学費の増加（8.0億円）によるものです。また、田尻グリーンフィールド改修費の計上等により、教育活動支出計は前年度より8.8億円増加しました。なお、経費節減の取組により、予算比では6.5億円の減少となっています。

以上の結果、教育活動収支差額は前年度より1.2億円増加し11.6億円となり、予算比では6.2億円好転しました。なお、修学支援制度の拡充により収入・支出はともに前年度より増加していますが、収支差額への影響は限定的であり、教育活動の収支バランスは維持されています。

受取利息・配当金で構成される教育活動外収入は、金利上昇局面において、特定資産を含む有価証券の取得を積極的に行った結果、前年度より0.6億円増加し、予算比では0.3億円増加しました。この結果、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計である経常収支差額は前年度より1.8億円増加し、予算比では6.5億円好転しました。

特別収支については、当年度は学校法人会計基準の改正に伴う賞与引当金の特別繰入れ4.7億円および資産処分差額を計上したことから、特別収支差額は5.0億円の支出超過となりました。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は9.1億円となり、前年度より3.9億円減少しました。事業活動収支差額比率は6.2%となっています。経常収支差額は前年度より1.8億円増加したものの、特別収支差額の減少幅が大きく、これが全体の収支差額を押し下げる要因となりました。なお、予算比では6.8億円好転しました。

基本金については、田尻グリーンフィールドのラグビー場人工芝更新、西南コミュニティーセンターの空調更新、小学校厨房の空調機器等の更新、小学校無線LAN機器更新等並びに除却に伴う取崩対象額を部門別に相殺し、第1号基本金の組入れ0.8億円を計上しました。第2号基本金の組入れは、西南会館、学術研究所、新講義棟建築のための10.0億円及び中学校・高等学校校舎改築資金1.0億円であり、将来の教育環境整備に向けた組入れです。第3号基本金の組入れは、大学奨学基金、中学校・高等学校奨学基金等の2.0億円、第4号基本金の組入れは、恒常的に保持すべき資金の積み増し分として0.1億円を追加で計上しました。

この結果、基本金組入後の当年度収支差額は4.7億円の支出超過となり、前年度より10.7億円減少しました。なお、予算比では0.8億円好転しました。また、翌年度繰越収支差額は14.3億円の支出超過となっています。

貸借対照表（2026年3月31日）

（単位：百万円）

科目		本年度末	前年度末	増減
資産	固定資産	70,061	68,186	1,875
	有形固定資産	41,421	42,418	△ 997
	特定資産	15,046	13,852	1,194
	その他の固定資産	13,594	11,916	1,679
	流動資産	9,226	9,747	△ 520
	資産合計	79,288	77,933	1,355
負債	固定負債	3,333	3,466	△ 133
	流動負債	3,708	3,133	575
	負債合計	7,041	6,598	442
純資産	基本金	73,678	72,291	1,387
	繰越収支差額	△ 1,431	△ 956	△ 474
	純資産合計	72,247	71,334	913
参考	減価償却額の累計額	21,755	20,806	950
	基本金未組入額	437	564	△ 127

貸借対照表は、年度末における学校法人の財政状態を示しています。

当年度末の資産の部合計は792.9億円で、前年度より13.5億円増加しました。この主な要因としては、現金預金の減少および減価償却の進行により有形固定資産が減少した一方、特定資産の積立増および有価証券の増加により固定資産が増加したことが挙げられます。

負債の部合計は70.4億円で、前年度より4.4億円増加しました。これは、学校法人会計基準の改正に伴い、2025年度より新たに賞与引当金を計上したことが主な要因です。

この結果、純資産の部は前年度より9.1億円増加して722.5億円となりました。

なお、2009年度末以降、借入金はありません。

財務状況の概要について詳しくはこちらから

※表中の金額はいずれも百万円未満を機械的に端数処理しており、合計等の数値が一致しない場合があります。

学生に受講してほしい講座

EVENT

\ 2026年度後期 公開講座 /

[「西南コミュニティーカレッジ」のご案内]

西南学院大学の知的財産等を広く社会に還元する目的で、公開講座「西南コミュニティーカレッジ」を実施しています。以下の講座は、本学の学生、専任・常勤教職員は**無料で受講**できます。ただし、定員に制限があります。

［提供］経済学部

混迷する世界経済は、いま

- 開講方式：対面
- 開催期間：11月10日（火）～12月8日（火）18:30～20:00（全5回）
- 各回内容

第1回	11月10日（火）	**アメリカ経済と世界経済の再編：新たな経済秩序を摸索するアメリカ** 立石 剛（経済学部教授）
第2回	11月17日（火）	**ロシア経済と戦争** 志田 仁完（経済学部教授）
第3回	11月24日（火）	**ホルムズ海峡の動向と日本経済** 河村 朗（経済学部教授）
第4回	12月1日（火）	**グローバルな資本階層社会の深化とインド・南アジア経済の変容** 加藤 眞理子（経済学部准教授）
第5回	12月8日（火）	**タイ市場に台頭する中国系電気自動車メーカー** 東 茂樹（経済学部教授）

［提供］大学博物館

博物館資料で学ぶキリスト教文化

- 開講方式：対面
- 開催期間：11月18日（水）～12月9日（水）18:30～20:00（全4回）
- 各回内容

第1回	11月18日（水）	**旧約聖書とジュダイカ** 宮川 由衣（大学博物館教員）
第2回	11月25日（水）	**聖書写本の世界** 宮川 由衣（大学博物館教員）
第3回	12月2日（水）	**祈りと芸術** 宮川 由衣（大学博物館教員）
第4回	12月9日（水）	**キリシタンの信仰具** 宮川 由衣（大学博物館教員）

各講座の詳細および申込み方法については、大学ホームページでご確認ください。

西南学院大学 生涯学習　検索

お問い合わせ　総合企画部 社会連携課

［TEL］092-823-3952（平日9時～17時）［E-mail］sw-ext@seinan-gu.ac.jp

EVENT

[西南学院大学 第77回大学祭について]

統一テーマ　虹汐（こうせき）－地平線のその先へ－

11月5日（木）～11月8日（日）に大学祭を開催します！模擬店や教室企画等、たくさんの企画をご用意しております。本年度は、すべての企画をさらにパワーアップしておりますので、ぜひご来場ください！詳しい情報については、大学祭公式SNSをご覧ください。

お問い合わせ先　西南学院大学第77回大学祭 大学祭実行委員会公式SNS

X（旧Twitter）　Instagram　大学祭HP



NEW PARTNER INSTITUTIONS

[新規国際交流協定校のご案内（アメリカ、スイス、ポルトガル）]

本学は、海外の大学と国際交流協定を締結し、半年間または1年間の学生交換や短期語学研修を実施しています。この度、新たに以下の大学と協定を締結しましたのでお知らせします。

これにより、本学の国際交流協定校は、38カ国・地域123大学（学生交換協定のある大学は37カ国・地域109大学）となりました。



ウィスコンシン大学オークレア校（アメリカ）



ラトガース・ニュージャージー州立大学カムデン校（アメリカ）



フリブール大学（スイス）



コインブラ大学（ポルトガル）

協定校の詳細や海外派遣留学生制度についてはこちら

お問い合わせ　国際センター

［E-mail］outbound@seinan-gu.ac.jp

HONORARY PROFESSOR

[名誉教授の称号を授与]

本年3月31日付で本学を定年退職した教授に対し、4月1日付で本学名誉教授の称号が授与されました。名誉教授は、本学専任教授として20年以上在籍し、教育・研究面で多大な功績をあげた教員に授与されるものです。これまでに名誉教授の称号を授与された教員は、下記の2名を含めて147人となりました。

〈 2026年4月1日付名誉教授称号授与者 〉

金子（かねこ） 幸男（ゆきお） 外国語学部外国語学科

宮原（みやはら） 哲（あきら） 外国語学部外国語学科